

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達センターあつた（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	2025年10月7日		～ 2026年3月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○訪問先施設評価実施期間	2025年 8月 29日		～ 2026年 3月 26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援事業（ひこうきグループ）を並行して利用しているお子さんがいるため、小集団での子の姿と保育園・幼稚園での基礎集団での姿を両側面から捉え、支援に繋げていくことができます。	それぞれの保育園の保育内容や職員体制は違うので、園の先生のやり方や流れは大切にしつつ、その中でできることを提案できるようにしています。 お子さんのできていること、強みを中心に伝えることは大切にしています。	・必要に応じて、児童発達支援事業の小集団の中での姿を見に来てもらう機会を設けることも検討します。 ・現場の先生の困り感もそうですが、利用者本人が何に困難を感じているのかを第一に支援を考えていきます。
2	療育グループを経過しているお子さんが主なので、お子さんの特性や安心できる関わり方を深く理解したうえでの支援できるのは強みです。 また、保護者との信頼関係ができていますので、親の思いも踏まえた支援を考え、園と家庭との橋渡し役として機能しやすいです。	保護者、園、事業所の3者が同じ方向を向けるように、伝え方はシンプルにわかりやすく整理しています。	・その子に合う環境調整の視点を大切に、関りだけでなく、配置・声掛けのタイミングなども一緒にかんがえていきます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今年訪問に向いた職員は一人だった。 ⇒支援の属人化が起きやすい。 ⇒日程調整や訪問回数に制限が出る。 ⇒他職員の支店が入りにくい。	同行できる専門職の配置がないことや、体制的に複数で訪問できる機会がなかった。	複数職員で関われる体制づくり（毎回ではなくても、事業継続・人材育成のためには必要） 他事業所や研修での事例検討 ⇒一部の職員だけの支援内容に偏らない仕組みづくり
2			
3			